



著者プロフィール

須賀一恵（すが・かずえ）本名 照子

大正15年9月5日、東京生まれ

昭和43年 お茶の水女子大学附属中学PTA「花かげ句会」
発足に参加

昭和49年 「春燈」入会

昭和50年 「花かげ句会」全員と共に「麻」入会

昭和54年 「麻賞」受賞

昭和60年 4月「麻」「春燈」退会

11月「未来図」入会

平成2年 第4回「俳壇賞」受賞、「未来図賞」受賞

句集 『都鳥』『鮎の骨』

現在 公益社団法人俳人協会会員、「未来図」光陰集同人

〈句集『銀座の歩幅』より転載〉〈2016年9月5日時点〉

『銀座の歩幅』（自選15句）

須賀 一恵

うつとりと切山椒のもたれ合ふ
和音より始まるソナタ梅ひらく
うかと出て春の寒さの耳双つ
芳草やすこやかにいま老いざかり
銀座には銀座の歩幅夕永し
えびね蘭長き不在の椅子に置く
蝕甚の朝のうす闇パセリ噛む
駿馬より輓馬親しき夏野かな
いま欲しきものに火の性唐辛子
いちじくに臍ありイヴの昔より
まつすぐにセロリ匂へり決断す
晩年に未知の道あり花野行く
荒れてこそ海は力や親鸞忌
吾輩といふ貌でなし悴け猫
春近しあけぼの色に貝の舌